

小平市史 近現代編 目次

口絵
序
凡例
目次

近現代編を手にとる方々へ

小平の近現代の歴史とは？ 近現代編の編さん方針と編さん過程 近現代編の構成 近現代編を読む際に前もって知っておいてほしいこと 小平の近現代史に影響を与えた三つの要因——「開発」「改良」「福祉」「くらし」の視点をいっそう深めるために 東日本大震災後の自治体史 市制施行五〇周年に地域の歴史を振り返る

1

第一章 村の維新

第一節 七か村の維新と地域の枠組み

1 明治維新と村役人

村の御一新 維新期の小平の村々 斐山県と品川県の設置 御門訴事件の勃発 戸籍

25

25

目次

法と村役人制度の廃止

2 明治政府の地域編成と地域の結びつき

大区小区制と村用掛・代議人 九小区会所のようにす 郡区町村編制法 村会の結成
地域の枠組みの模索と連合戸長役場の結成

35

3 新たな制度と社会の変化

開化の風潮 村の郵便 村の派出所 徴兵制の施行と最初の戦争

42

第二節 地租改正と新田村落の由緒

50

1 小平の農業生産

明治初年の農作物 明治一〇年代の農業生産 水車と製粉 村の階層構成

50

2 地租改正事業の推移

明治政府の土地政策 地租改正令の公布 地租改正の実施 税負担の増加

57

3 地価修正反対運動の展開

無収獲地をめぐる 神奈川県による更生地価の提示 地価修正反対運動の開始 武蔵野新田の由緒とあらたな結合 救助金の下賜と運動の分断・終息 武蔵野新田意識から「改良進歩」へ

61

第三節 改良への模索と自由民権

1 玉川上水通船への期待

通船の開始と小平 船溜と荷物置場をめぐる騒動 培養商会の結成

2 茶葉の導入と先義会社への参加

茶樹栽培の開始と「改良進歩」 取締規則制定請願と先義会社 先義会社の再請願と製茶業の拡大

3 農政の転換と小平の民権運動

民権運動の北多摩への広がり 自治改進黨の結成 中和会と小平 民権運動に対する対応の違いとその背景 大日本農会の設立と斉藤忠輔 国盛社と玉川銀行

4 茶葉の隆盛

政治重視から経済重視へと転換した北多摩郡 茶葉組合準則の発布と北多摩郡茶葉組合の結成 茶葉組合郡部取締所の設置 茶業者が多かった「第三号部」

第四節 暮らしを支える仕組みと文明化

1 小学校と地域

小平の手習い塾 学制の施行と小学校の設置 明治初年の生徒と学校 集成学校の設立と分離 身近な小学校を求める動き

目次

98

98

91

80

74

68

68

2 伝染病と医療の文明化

医療の近代化 幕末～明治期の小平の医師 本多雖軒の治療記録 宮崎義智の検死記録
から 伝染病と立ち向かう地域の医師

106

第二章 小平村の成立

第一節 「改良進歩」をめぐる対立と小平村

119

1 小平村の誕生

「小平」の誕生と村長・助役 誕生から第一次大戦期までの村財政

119

2 壮士勢力の台頭

キリスト教の小平への広がりとは政治活動 県会騒動と小平 神奈川県通信所の設立と小川
諸氏

124

3 茶業・蚕糸業組合をめぐる対立

茶業郡部取締所をめぐる紛擾 北多摩郡北部蚕糸業組合の結成 殖産興業談話会の結成
茶業組合規則の制定と郡長訓令取消問題 北多摩郡農工講話会の結成 蚕糸業組合設置方
法にかんする意見照会

130

第二節 北多摩政界の再編と「改良進歩」の組織化

144

| | | |
|------------------------|---|-----|
| 1 | 北多摩郡正義派の結成 | 144 |
| | 神奈川県倶楽部の結成 北多摩郡倶楽部の設立 北多摩郡正義派の結成と小平 | |
| 2 | 東京府編入と川越鉄道 | 149 |
| | 通船から甲武鉄道へ 移管運動の開始と分裂 川越鉄道の敷設と土地収用 停車場の位置をめぐる対立 東京府編入の実現 | |
| 3 | 政治と経済に揺れた小平 | 164 |
| | 正義派解散後の小平 第二回総選挙 神奈川県実業者相談会と正義青年会 国民協会の結成と小平 | |
| 4 | 茶業から養蚕・蚕種業へ | 173 |
| | 大日本農会北多摩支会の結成 系統的品評会の開催 茶業の衰退と養蚕・蚕種業の拡大 | |
| 第三節 日清・日露戦争と小平村 | | |
| 1 | 対外戦争のはじまり | 182 |
| | 小平に残された戦争記念碑 日清戦争と台湾の植民地化 出征兵士と留守家族 台湾での戦闘 | |
| 2 | 日露戦争と小平村 | 188 |
| | 日露戦争の規模 戦時下の兵士・留守家族と小平村 旅順攻囲戦 奉天会戦へ | |

第四節 暮らしを支える諸団体と青年

197

1 青年の組織化

197

回田青年会の結成 会則の改正と小平村青年会の結成

2 諸団体の結成

200

在郷軍人団から在郷軍人会へ 村人の安全を守る消防組と衛生組合

3 震災での支え合い

203

村内の罹災状況 村外への支援 村内避難民への支援

コラム 明治の小平の小学校にやってきた教師たち

209

第三章 学園開発と小平村

第一節 学園開発のはじまり

215

1 「大東京」と郊外化

215

田園の趣味 「大東京」の誕生

2 箱根土地の小平学園開発

219

堤康次郎の学園都市構想 女子英学塾・明治大学の移転計画 国分寺大学都市計画 国

| | | |
|----|--|-----|
| 目次 | | |
| 3 | 郊外型施設の進出 | 228 |
| | 分寺大学都市から小平学園へ　多摩湖鉄道の開通　女子英学塾・東京商科大学予科移転後の小平学園　国分寺厚生の家と西武鉄道　旧西武鉄道村山線の開通 | |
| | 海外拓殖学校・東京高等拓殖学校　結核療養所　研究施設の移転　小金井カントリー倶楽部 | |
| 2 | 戦間期の行政財政の諸問題 | 234 |
| | 1 戦間期の村財政 | 234 |
| | 村財政の膨張と義務教育国庫負担制度　戸数割の委譲と反別割の導入　昭和恐慌と農村救済政策　村税滞納問題の発生 | |
| | 2 小学校高等科併置問題 | 238 |
| | 小学校高等科の増設をめぐる議論　小学校再編にともなう諸問題 | |
| 3 | 第三節　暮らしを支えるムラと教育熱 | 242 |
| | 1 暮らしの防衛 | 242 |
| | 自然災害から暮らしを守る　火事と消防　消火活動 | |
| | 2 地縁と血縁による互助 | 246 |

地縁組織 香奠の金額 姻戚の力

3 地域と教育

地域で運営する学校 新しい教育方針と学校経営 郷土教育と愛国心 学校生活と子どもたち 就学と進学へのひろがり 実業補習学校と農業公民学校 小平村青年団の結成
青年の修養欲求と青年団 女子青年団

4 衛生と医療

伝染病対策 昭和病院の開設と医療機関 町の医者 暮らしを支えるムラと教育熱

第四章 戦時開発と町制施行

第一節 戦時開発と変わる小平

1 軍事関連施設の進出

最初の戦没者村葬 戦時開発とは 傷痍軍人武威療養所 陸軍経理学校 北多摩通信
所と陸軍技術研究所 大学に駐屯した東部九二部隊

2 軍需工業化と小平

軍需工場の進出 陸軍兵器補給廠小平分廠 東部国民勤労訓練所

3 戦時開発と地域社会の変容

戦時の住宅問題 土地強制買収 飯場の朝鮮人 厚生の家 戦時の都市計画

| | | | |
|-------------------------|-------------------------|--|-----|
| 1 | 国民健康保険制度の成立 | 小平村国民健康保険組合 | |
| 3 | 教育と地域 | 農村青年と青年学校 戦時開発と児童の進路 疎開児童の受け入れ | 321 |
| 4 | 活動する女性 | 婦人会活動 女性労働力の動員 津田こどもの家 | 328 |
| 5 | アジア・太平洋戦争の出征者、戦没者、戦災死没者 | 小平からの出征者 小平の戦没者 空襲と小平 | 335 |
| 第四節 戦前・戦時の移動と生活圏 | | | |
| 1 | 生活圏と日常的な移動 | 小平村の人口動態 農業生産と移動 消費生活と移動 祭りや参詣 通婚圏 通勤・通学圏 通院・治療 重層する地域圏 | 342 |
| 2 | 戦時開発と移動 | 戦時の人口急増 流入人口の性格 戦争の深まりと移動の諸相 | 350 |
| 3 | アジアのなかの小平 | 小川兄弟と中国 満蒙開拓青少年義勇軍 南方人材の育成 小平にやって来た人びと 戦地での移動とアジア体験 中国大陸から南方へ 看護婦として従軍 満州の日本軍 | 355 |

アジアのなかの小平

コラム 戦時の小金井カントリー倶楽部

367

第五章 戦後小平町の出発

第一節 小平の戦後復興

373

1 戦時開発の清算と再出発

373

進駐軍がやってきた 旧軍用地の解放を 住宅問題と人口増 転用される陸軍経理学校
跡地 国立武蔵療養所と身体障害者公共職業補導所 戦時開発地の再出発

2 農地改革

385

農地改革の実施状況 農地委員会の活動 農地の買取・売渡 寄せられた陳情書

3 農業の改良

393

農家数と経営耕地面積 さつまいも・すいかの特産化と養豚 小平町の畑作経営改善事業
花卉研究会と即売 恵泉女子農芸専門学校の転入

第二節 立川基地と小平町

402

1 米軍機の墜落事故と賠償問題

402

目次

| | | | | | | |
|-------------------|----------------|----------------|--------------------|-------------------------|-----------|---------------|
| 米軍機の墜落事故 | 「ギャラップ・ゴー」 | 離航した賠償問題 | 津田塾大学生の平和意識 | | | |
| 2 基地と平和運動 | 米軍基地と社会問題 | 原水爆禁止運動 | 砂川闘争と生業資金 | 小平町議会における核実 験禁止要望の決議 | | |
| 406 | | | | | | |
| 第三節 町村合併の動きと町誌編さん | | | | | | |
| 1 町財政と社会資本整備 | 地方自治の民主化と自治体警察 | ドッジ・ラインとシャウプ税制 | 小中学校の校舎建築と 失業対策 | 一九五〇年代の町財政 | 道路・排水路の整備 | 水道・ごみ収集事業の町営化 |
| 410 | | | | | | |
| 2 小平町における町村合併の動き | 町村合併問題の発生 | 三町合併へ | 農家出身議員の反対 | 三町合併の不成立 | | |
| 417 | | | | | | |
| 3 町誌編さんと地域認識 | 町誌と小平町史研究会 | 新田村と地縁組織 | 町民参加 | 町誌の完成と小平郷土研究会の 発足 | | |
| 421 | | | | | | |
| 第四節 郊外化と工場移転 | | | | | | |
| 1 人口の急増 | | | | | | |
| 426 | | | | | | |
| 426 | | | | | | |

| | | | |
|----------------------|-------------|--|-----|
| 2 | 工場への進出 | 戦後の人口 女子大学のある町 小平町報からみた人口増加 | 431 |
| 3 | 商業と交通 | 一九五〇年代の製造業 小平町の工場誘致 プリヂェストーンタイヤの進出 工場誘致のもたらす効果 日立製作所トランジスタ研究所の進出 | 439 |
| 第五節 戦後復興期のくらしを支える仕組み | | | |
| 1 | くらしの再建 | 食糧難と生存を守る動き くらしの改良政策 | 447 |
| 2 | 学校教育 | G H Q通牒と署名捺印 教室が足りない 学校教育と地域の改良 | 452 |
| 3 | 公民館と社会教育 | 有賀三二と青年教育 青年学級の開設 新しい女性像 町報に学ぶ 公民館で学ぶ 映画会で学ぶ 婦人学級で学ぶ 新しい学びへの模索 | 458 |
| 4 | 障害児教育と医療・福祉 | | 473 |

| | | |
|---------------|----------------|-------------------|
| 小川に集まった身障者の施設 | 施設の目的と実際 | 戦後の公衆衛生と医療 |
| 5 この時代の特徴 | 戦時から戦後へ | 復興期のくらしを支える仕組みの特徴 |
| コラム | 魂のゆくえと小平霊園 | |
| 483 | | |
| 第六章 郊外化と市制施行 | | |
| 第一節 小平市の誕生 | | |
| 487 | | |
| 1 市制施行 | 「市制について考えましょう」 | 市制に向けた町民の要望 |
| 487 | | 市制施行と祝賀行事 |
| 2 都市基盤整備と市財政 | 小平都市計画区域 | 一九六〇年代の市財政 |
| 490 | | |
| 3 行政の整備 | 市庁舎改築と行政機構の改組 | 事務の合理化と庁内広報誌の発行 |
| 496 | 運動と「市の木」「市の花」 | 小平市緑と花いっぱい |
| 第二節 人口の急増と郊外化 | | |
| 501 | | |

の後退と社会科教育の変容

3 小学校社会科副読本と校歌

社会科副読本と地域意識の変化

校歌にあらわれた郷土意識と自然

531

第四節 郊外化とくらしを支える仕組み

1 くらしと仕組み

人口増加とくらしを支える仕組み

くらしを支える担い手

537

2 学校教育と保育

増える園児・児童・生徒数

幼稚園と学校の増設

教育環境の整備

母親たちの活動

地域のなかの子ども 「保育の社会化」をめざして
大学のまち小平 地域の人びとと朝鮮大学校

学童保育クラブの増設を求めて

539

3 公民館と社会教育

公民館の建設

一九六〇年代前半の青年学級

一九六〇年代後半の青年学級

郊外化の

進展と女性たちの学び
明寿会の発足

主婦と家庭の外で働くこととの間で

寿学級・明治学級の開設

558

4 医療と福祉

市制施行と医療・公衆衛生

地域精神衛生業務連絡会の設置

ケースワーカーの取り組み

一九六〇年代の都立小平養護学校

都立小平養護学校のPTA

574

| | | |
|-----|--|-----|
| 目次 | | |
| 第七章 | 郊外都市と市民生活 | |
| 第一節 | 「長期総合計画」 | 615 |
| 5 | 「団地族」のくらし | 583 |
| 6 | この時代の特徴 | 599 |
| | 小平「団地族」の誕生 「団地族」と新しい故郷 団地自治会の結成 会報「さごんか」 の発刊 生活環境の改良 消費生活の共同防衛 子どもたちのために 親睦を求めて | |
| | 子育てを支える 福祉と医療を支える仕組み 新しく移り住んだ人を支える 地方自治 体の役割 | |
| 第五節 | 戦後の移動と生活圏 | 602 |
| 1 | 戦後復興期の移動 | 602 |
| | 引揚者や浮浪者への対応 都営住宅などの建設と軍関連施設の転用 | |
| 2 | 郊外化と生活圏のひろがり | 605 |
| | 郊外化と定住志向 通勤からみた小平の移動 通学からみた小平の移動 医療機関と福 祉関連施設に通い、住む | |

| | | |
|---|------------------------|-----|
| 1 | 「長期総合計画」の策定 | 615 |
| | 「長期総合計画」の策定への道 | |
| | 「長期総合計画」の策定 | |
| | 「住宅都市」と「緑」 | 一九八 |
| | 一年の「第二次長期総合計画基本計画」 | |
| 2 | 市政のなかの「地元意識」と「緑」 | 620 |
| | 市民相談と市政世論調査 | |
| | 市政世論調査の「地元意識」 | |
| | 緑化条例とけやき並木 | |
| 3 | 市財政 | 625 |
| | 一九七〇年代から八〇年代半ばまでの市財政支出 | |
| | 教育費・土木費・民生費の支出状況 | |
| | 第二節 郊外都市の基盤整備 | 628 |
| 1 | くらしやすさと社会基盤 | 628 |
| | 下水道の整備 | |
| | 「青空駐車」問題 | |
| | 児童遊園地の整備 | |
| 2 | 産業構造の変容 | 633 |
| | 就業者数の増加と構成の変化 | |
| | 工業の動向 | |
| | 商業・サービス業の展開 | |
| | 農業と生産緑地 | |
| 3 | 商店会と大型小売店の進出 | 640 |
| | 小平駅の石材店 | |
| | 商店会 | |
| | ダイエー小平店の出店問題 | |
| | 商工会がダイエー出店反対運動をふり返る | |
| | 都営住宅の住民もダイエー出店に反対する | |

第三節 市民生活・消費生活を見つめ直す

1 消費社会への動き

消費者教育がはじまる 生活学校で学ぶ

2 消費者行政の取り組み

革新都政誕生 消費者行政の確立 市政モニターへのアンケート 消費経済課の設置

3 消費生活展とさまざまな消費者運動

消費生活展 市民葬儀の実現 高齢者福祉を考える 学園東町生活学校と資源回収運動
学校給食から考える

第四節 地域のなかの歴史をたどる

1 伝統の維持と継承

鈴木ばやしの保存 伝統芸能を地域で受け継ぐ 市民まつりと山車 小平神明宮のお囃子と八雲祭 鈴木遺跡と地域の歴史意識

2 学校における郷土学習

ゆとり教育と郷土への関心 中学校社会科副読本『私たちの小平』

3 図書館の設立と活動

672

670

666

666

656

650

647

647

目次

| | | | |
|---------------------|-------------------|------------------------|--------------------|
| 小平市立図書館の開館 | 古文書の収集と資料保存 | 児童サービス | 子ども文庫 |
| 4 小平市玉川上水を守る会の発足と活動 | 「何も加えない」保全 | 「何もしない」多様な活動 | 「地元の方」からの聞き書きと故郷創出 |
| 小平民話の会 | | | |
| 5 高校生・大学生の地域研究 | 創価高校生物部のけやき調査 | 教員が支える地域研究 | 都立清瀬高校の地域調査報告書 |
| 手を加えない玉川上水の価値 | | | |
| 第五節 暮らしを支える仕組みと運動 | | | |
| 1 暮らしと仕組み | 一九七〇年代の暮らしを支える仕組み | 暮らしを支える運動 | |
| 2 学校教育と保育 | 一九七〇年代の学校をめぐる状況 | 子どもの遊びと遊び場問題 | 障害児のための若草学級 |
| | 勉強とクラブ活動のはざま | 中学生の進学動向 | 都立高校増設運動 |
| | それぞれの受験 | | 生徒と親と教員 |
| 3 公民館と社会教育 | 地区公民館の設置 | 公民館利用者懇談会 | 青年学級連絡会 |
| | すみれ青年教室とけやき青年教室 | 婦人教養セミナーの開設と女性グループの自主化 | 青年教養大学と青年文化教 |

第八章 小平市の現在

第一節 市政の構想と課題

1 「新長期総合計画」の策定

「新長期総合計画」の作成 「ふるさとづくり」と「小平新開拓時代」 一九七〇年代の小平

757

6 この時代の特徴

福祉・医療・教育を軸にしたくらしの仕組み 小平の福祉の時代

コラム 「岳物語」と椎名誠と小平

753

5 運動

活動と運動の時代 障害者の権利を向上させる運動 本家慶昭とめざす会の人びと あ
さやけ作業所の運動 あさやけ第二・第三作業所 小川駅のエレベーター設置 運動が
結ぶ地域のつながり

733

4 医療と福祉

公民館保育室の開設 高齢者向け社会教育の拡充 明寿会の変化
医療と福祉の担い手のひろがり 社会福祉協議会と小平市の障害者福祉都市指定 高齢者
福祉への取り組み 民生委員・児童委員の活動 地域精神衛生業務連絡会によるサポート
地域で福祉と医療を連携すること

722

での取り組みとのかかわり

2 「第三次長期総合計画」の策定へ……………761

ポスト「開発」の時代 「地域力」「民活力」「行政力」

第二節 地域のなかの歴史と文化……………766

1 歴史と文化をふり返る……………766

「昭和三〇年代の結婚式」の再現 食文化としてのうどん 「小平の鳥」の制定 「べーぶらん」と音への関心

2 地域の歴史をたずねる市民の活動……………771

小平郷土研究会「小平ふるさと物語部会」 「小平・ききがきの会」とアジア太平洋戦争 「平和のための戦争展・小平」と小中学生

第三節 社会をつなぎ直すくらしの仕組み……………776

1 地域保健福祉計画の策定と福祉のまちづくりの推進……………776

福祉行政の推進 地域保健福祉計画の策定と『ともに生きるまち小平』 新小平市地域保健福祉計画と小平市障害者団体連絡協議会の結成

2 社会をつなぎ直す……………781

小平特別支援学校と地域 放課後活動の「ゆうやけ子どもクラブ」 小平団地の「ゆうらう
んじ」 小平の在日外国人と行政・地域

第四節 新しい小平をめざして……

1 近現代史のなかの小平 —— 「開発」「改良」「福祉」の歴史……

新田「開発」から明治の「改良」へ 学園「開発」と戦時「開発」 戦後の郊外「開発」の
時代へ 「福祉」の時代 小平の歴史のなかの「改良」「開発」「福祉」

789

2 「くらしを支える仕組み」の歴史からみえること……

くらしの近代化と制度・組織の受容 戦争前後のくらしを支える仕組み 郊外化とくらし
を支える仕組み

794

3 歴史に学び、未来をみずえる……

自治基本条例と小平市制施行五〇周年 歴史をそなえた都市へ

798

コラム 学校記念誌をつくるということ——校風と歴史を伝え継ぐ…… 804

参考資料

統計

目次

目次

近現代編の編さんを終えて

資料提供者・提供機関および協力者・協力機関

執筆担当者

市史編さん関係者